

**民進**  
Minshin Press (民主改題)

**号外** 静岡3区版  
平成28年5月22日

**明日の日本 生活が第一**  
民進党 民進プレス編集部 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1  
電話 03-3595-9988(代表)  
メール press@dpj.or.jp  
URL <https://www.minshin.jp>

# 小山のぶひろ国政報告会

協賛/連合静岡中遠地域協議会・東遠地域協議会

日時

6月2日(木) 19:00~  
(18時30分開場)

場所

磐田市民文化会館 ホール

参加無料

静岡県磐田市二之宮東3-2 TEL(0538)35-6861



弁士 民進党代表

岡田 充也 衆議院議員



ゲスト 民進党静岡県参議院選挙区第一総支部長

平山 佐知子



主催 民進党静岡県第三区総支部長

小山 展弘 衆議院議員

お問い合わせ先

お気軽にお問い合わせの上、ご参加ください。

民進党静岡県第3区総支部事務局 電話 0538-39-1234 FAX.0538-39-1235

# 報徳立国・日本を創ろう!

Q 中東遠地域には、二宮尊徳の「報徳思想」が現代も息づいています。

A 現代の我々が二宮尊徳にどのようなところを学ぶべきでしょうか。

幕末の農村復興に活躍した二宮尊徳の教えは、現代に通じるところが多くあります。トヨタ自動車や松下幸之助の経営理念にも大きな影響を与えたとも言われています。中でも二宮尊徳が、自らの教えを108文字にまとめたという「報徳訓」は、「自分さえよければよい」という独りよがりを戒めています。また、「田畠山林は人民の勤耕にあり」と説いています。これは「田畠の実りや山林の恵みは、人々が真面目に働くためだ」という意味です。大日本報徳社社長の樺村純一先生は、「田畠の実りや山林の恵みは殿様や武士のおかげ」と考えるのが常識の時代に画期的な主張をしたおっしゃっています。

翻って現代、企業経営について、「会社は株主のためだけのものだ」「株主にもっと利益を還元しろ!」と主張する学者や評論家がいます。「公益資本主義」を掲げる原丈二氏によれば、「もの言う株主達」から送り込まれた経営者が、株主への配当を増やすために、リストラを行い、施設はでは事業を売却し、短期的な利益をあげようとするケースがあるとのこと。アメリカのウォール街のことかと思っていましたら、中東遠エリアでもそれに近い出来事が起きたと伺っています。いまこそ、企業経営について、経営者や株主の役割を決して否定するものではありませんが、尊徳風に言えば「会社の利益は社員の勤労にあり」という日本の経営を再評価すべき時にきているように思います。

Q 現代日本の経済に対しても示唆するものがあるでしょうか。

A 安倍総理は、日本経済について、これまで良いとされてきた経済指標について「アベノミクス」なるものによって結果が出たと主張してきました。しかしながら、株や為替は、世界経済や国際金融の動向が良い環境にあったことが要因で経済指標の数値がよくなつたとも考えられます。また、リーマンショックや東日本大震災を底として回復基調にあった経済指標をとらえて、「すべてアベノミクスの効果である」と主張してきました。仮に「アベノミクス」なるものの効果があったとしても、かなり言い過ぎだったのではないかでしょうか。二宮尊徳風に言えば「日本の繁栄は国民の勤労にあり」というよう、経済政策に対する謙虚な姿勢を持ったうえで、いかに実質賃金を増やし、いかに国民所得を増やし、日本経済の60%近くを占める個人消費を伸ばすことを考えていかなければならぬと思います。

二宮尊徳は、本質において人の心は善であるとする「一円融合」や、それぞれの長所や美点を活かし、伸ばし、徳に対して徳を以て報いる「報徳」、分限に合わせて節約を求めるとき同時に余剰については助け合いのために互いに供するべきとした「分度・推

譲」など、様々な言葉や農村復興の仕法を残しています。それらは、財政再建や人口減少対策、マーケットの縮小などの現代日本の様々な問題に対する解決のヒントを与えているように思います。二宮尊徳の報徳思想を活かしつつ、一人一人が生かされる、役割と生きがいを持って生きることができる共生の社会、「報徳立国・日本」を目指していきたいと思います。

## 「現場からの保守」

Q 「保守」や「保守政治」についてどのような認識持っていますか?

A 「保守」にはいろいろな定義があります。ある人は伝統・文化を守ること認識し、ある人は市場原理や競争原理を政府の介入から守ることを保守(この場合は自由保守主義という場合にあるようです)と認識します。ある与党議員は「土着の保守とイデオロギーの保守がある」と分類していましたが、この分類には私も共感します。土着の保守・現場からの保守の姿勢とは、理論理屈や主義にとらわれることなく、現場にとつて最も適合する政策を行おうとする姿勢(その際に伝統や文化といったものも考慮して生かす)であり、現行制度の良い部分も評価することではないかと思います。

現在の安倍政権の姿勢は、少なくとも、土着の保守・現場からの保守の姿勢とはいえないと思います。昨年の農協法制度変更については、全国監査機構の廃止と監査法人化といった形式を変えることで問題がすべて解決されるように認識しておりました。集団的自衛権についての議論や派遣法改悪についての議論でも同様の姿勢が見られました。現行制度がうまく機能しているのに理論や理屈に合わないから変えてしまう、あるいは、変化を求める人たちにアピールしたいがために「変えること自体が目的」となっているくらいがあるのではないかでしょうか。これはまさに、「イデオロギーの保守」であり、現実を理屈に合わせていこうとする「国粹をイデオロギーとした革新」とでもいうべきものではないかと思います。

何を「保守」すべきなのか。私は70年間の平和と経済的繁栄を築いてきた、戦後の価値や現在でも機能している仕組みこそ、再評価し、「保守」すべきではないかと考えています。戦後の歩みを全否定し、「戦後を変えること」自体を目的とするのではなく、むしろうまく機能してきたものについては評価したうえで、時代に合わない部分については修正をしていくという姿勢こそ求められていると思います。そのような「改革」「修正」の姿勢こそ、エドモンド・バーク以来の、本来の「保守」の政治姿勢ではないかと思いますが、私はこれを「現場からの保守」の姿勢と申し上げたいと思います。そして、今、まさにこの「現場からの保守」の姿勢に基づき、人口減少やマーケットの縮小、財政再建といった問題に、正直かつ着実に向き合っていくべきだと思います。

### ● 国民の所得向上、個人消費の増加

国民の所得が増え、「生活」が安定してこそ、GDPの約6割を占める個人消費が持ち直し、経済も成長します。税制や給付等を通じ、所得再配分政策をすすめ、国民の所得、特に働く世代、若い世代の所得が増える政策を進めます。

### ● 社会の保障制度の信頼回復

消費税の使い途は、自動車取得税等の不合理な税制の撤廃に使うほかは、全額、社会保障制度の維持に使い、年金、介護保険、医療保険などの社会保障制度の信頼性を高め、将来も安心して「生活」できる社会を目指します。また、国民皆保険の医療制度は、いかなることがあっても堅持し、診療報酬のプラス改定を目指します。中東遠地域の医師・看護師を確保し、救急医療体制の確立に努めます。

### ● 子育て支援の充実と人口問題への取組

日本の最大の課題は人口減少。このまま少子高齢化が続ければ、財政の面でも、個人消費の面でも、10年後、20年後、私たちの「生活」は、もっと苦しくなります。長期的な視点でお子さんを産み育てやすい環境の国を目指します。

### ● 労働法規制の改悪に反対、安心して働ける労働政策の実現

ホワイトカラー労働者の労働時間に関する規制の緩和や、派遣社員の受け入れ期間制限の事実上の撤廃などの労働法規制の改悪に反対し、違法派遣根絶し、安定雇用を促進します。

### ● 災害対策の推進とクリーンエネルギーの実用化

中東遠地区の津波堤防構築に向け、全力を尽くします。学校のさらなる耐震化(建替え・根本的な改修)と民間住宅への国の支援の拡充を図ります。小水力、バイオマス、風力、地熱等々のクリーンエネルギー、再生可能エネルギーの実用化・普及に努めます。

### ● 農林水産業の再生・振興

日本型直接支払制度・戸別所得補償制度の拡充に努めるとともに、米価・茶価下落対策に努めます。「リーフでお茶を飲む習慣」の振興を図り、お茶の需要・消費拡大策を推進します。農協法変更に伴う准組合員規制調査・員外利用規制調査にあたっては、地域の現状を踏まえた調査となるよう行政を監視するとともに、「地域インフラとしての農協」がいきいきと活動できる環境づくりに努めます。

### ● 協同組合・NPOの振興と「新しい公共」の拡充

自立した個人の助け合いの組織である協同組合の発展に努め、「協同組合憲章」や「協同組合基本法」の成立に全力を尽くします。

NPOや協同組合などの「新しい公共」分野の拡充のため、税制改正をはじめとする政策を実現します。



**小山のぶひろ**

主催  
民進党静岡県  
第三区総支部 総支部長

**小山のぶひろプロフィール**

1975年 12月26日掛川市(旧小笠郡大須賀町)生まれ 磐田育ち  
 1982年 大須賀町立横須賀幼稚園 卒園  
 1988年 磐田市立磐田西小学校 卒業  
 1991年 磐田市立磐田第一中学校 卒業(水泳部所属)  
 1994年 静岡県立磐田南高等学校 卒業(弓道部所属)  
 1999年 早稲田大学 政治経済学部 政治学科 卒業  
 2001年 早稲田大学大学院 政治研究科 修士課程 修了(政治学修士)  
 農林中央金庫(JAバンク)入庫(2006年退職)  
 2006年 松下政経塾 入塾  
 日本公共政策学会入会  
 2007年 民主党静岡県第三区総支部長 就任  
 2009年 第45回衆議院議員選挙にて初当選  
 2013年 静岡理工科大学 非常勤講師(2014年まで)  
 2014年 第47回衆議院議員選挙にて当選(2期目)  
 現在 農林水産委員会、災害対策特別委員会、議院運営委員会に所属  
 衆議院農林水産委員会理事  
 民進党ネクスト農林水産副大臣  
 民進党公務員調査副会長  
 民進党国会対策副委員長  
 協同組合振興研究議員連盟 事務局長  
 二宮尊徳思想研究議員連盟 事務局次長  
 お茶振興議員連盟 事務局次長  
 連合組織内議員懇談会 事務局次長  
 全国農團会 組織内議員  
 民進党農林水産部門会議 農政改革研究会 主査  
 磐田市在住

●著書…「脱占領時代の対中政策」  
 -戦後の日本は中国とどう向き合つたのか-  
 ●尊敬する人物…石橋湛山、二宮尊徳、石田博英、徳川家康  
 ●趣味…カラオケ、B級グルメ巡り、温泉巡り、弓道(式段)、水泳  
 ●好物…カレーライス、とんこつラーメン  
 ●ニックネーム…コンちゃん

メールマガジン配信中!!

小山のぶひろの日本や郷土への想い、政治への熱い想い、活動報告などをメールに託してお届けいたします。

PC版 <http://www.n-koyama.com/mail> にアクセス

携帯版 n-koyama@67827.rat-ml.jp または

QRコードから空メールを送信で登録

